

LET's GOYA プロジェクト

～グリーンカーテンの教育効果～

目次

- ・プロジェクト経緯
- ・ESDとは
- ・プロジェクト目的・目的達成の基準・対象者
- ・プロジェクト内容
- ・プロジェクトの流れ
- ・実現されたこと
- ・結論
- ・反省
- ・来年に向けて

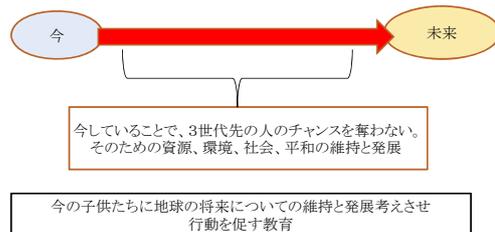
プロジェクトの経緯

3月10日に多摩市教育振興課の松浦氏から、中庭ゼミにレッツゴーヤというゴーヤを使ったESD効果のあるアイデアがほしいというところから始まった。

※ESD教育とは？

持続可能な開発を発想し、行動していく人材を育成するための教育。

ESDの理解



目的とその評価基準。正しい対象とは？

目的は？

グリーンカーテン作りはESD教育として子供だけではなくさまざまな人に気づきを与えることのできる教材なのかを明らかにすること

評価基準は？

子供のためのESDというのは前提で、一般、仕掛け人、管理者の立場ではどういった気づきがあったか、個人的な感情の変化があるか。

選択した対象は？

多摩市教育振興課:松浦氏。→仕掛け人
落合中学校副校長:長谷川氏。→学校管理者
多摩大学入試部:黒瀬氏→一般

プロジェクトの内容

検討

- ・グリーンカーテンの与えた気づきがいればESDがわかる(仮説)
- ・それによって3人それぞれ少し違った内容の質問事項を検討

調査

- ・インタビュー調査の実行
- ・それぞれの価値観を知る。(ストーリー性に注目した)

結果

- ・グリーンカーテンの気づきをそれぞれまとめる
- ・ESD効果を振り返る

場所:多摩大学・多摩市市役所・落合中学校
活動日時:5月～11月
テープ起こし・リテイク:12月

グリーンカーテンの果たした効果

| 黒瀬氏 | 長谷川氏 | 松浦氏 |
|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> • 声をかけてくれる人が増えた • 雰囲気が涼しくなった • 食べることでコミュニケーションが取れた • 最後までできた気づかせることができた | <ul style="list-style-type: none"> • 植物を育てる難しさ、大変さ、喜びを子供たちが感じた • 節電意識が芽生えた • 生徒が気持ちよく学習に取り組めた • 地域の人との連携があった | <ul style="list-style-type: none"> • 地域の人との連携がとれた • 網を地域から譲ってもらえて具体的な工夫ができた • 子供たちがゴーヤの苗の無料配布や被災地の募金活動をした |

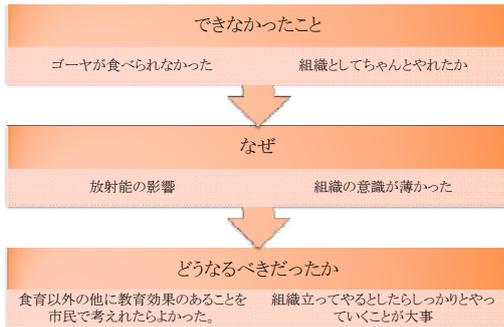
結論

- グリーンカーテンは、教育効果だけではなく地域の人々とのつながりの持てるツールだった。
- 子供たちの自発性を引き出すこともできた。
- 工夫すること、グリーンカーテンからさまざまなものをもっと引き出せるのではないかと可能性が見えてきた。例(網、苗の配布地域とのつながりなど)



子供たちは工夫による発展・自ら考え行動した自発性・地域連携による社会を感じることができた。地域の人と活動することで、ESD効果を高めることができそう。

反省



来年に向けて

1. 積極的に地域との連携をとる
2. 子供、学校管理者、地域の人が同じ目線で意見を言い合う
3. 地域の人と連携して組織を作る
4. 地域の人、子供、学校管理者みんなで食育以外のグリーンカーテンの用途も考えていく。